

名古屋高裁に田邊さんの再審申立！

7月15日12時30分、緊急な呼びかけにもかかわらず、名古屋高裁前には守る会、救援会の愛知県本部、各支部の方々が駆けつけ、弁護団による再審申し立てを力強く支えてくださいました。13時、名古屋高裁に入る10名の弁護団の先生方の姿は、たくましく確信に満ちていました。

提出後、弁護団による記者会見が弁護士会館で開かれ、後藤弁護団長の再審にかける思い、川岸事務局長の趣旨説明、小林先生の再審への見通しが語られました。会場を埋め尽くしたマスコミのみなさんは熱心に聞き入り、その後も多くの質問も出され、夕方のニュース、記事につながっていきました。いよいよ再審に向けた運動の本格的スタートの日となりました。

〈写真で見る7月15日・再審申立〉



名古屋高裁前に駆けつけてくれた支援のみなさん



↑

司会の竹崎さん
(救援会愛知県本部事務局長)



←

弁護団激励集会

われらが守る会
会長の渡辺さんの
弁護団激励



↑

名古屋高裁前には支援者と同じくらのマスコミ関係者



提出前の弁護団の先生方の凜々しい姿



弁護団を代表して後藤団長の力強い挨拶



「弁護団ガンバレ！」みんなの思いを受け、名古屋高裁に向かう弁護団





↑

記者会見の様子

会見場は、一審無罪のあとの会場と同じ弁護士会館4階の会議室。後藤先生と堀先生にとって感慨深い会場でした



← 会見場に臨んだ弁護団の先生方手前は、マスコミの方々



後藤先生と一審から支えてこられた堀先生

一審で3年かかった。夜中の零時、1時に裁判所に来てもらい現場検証した—それが確信となって無罪につながった。二審もお願いしたが、文書を見れば・・・

後藤先生、堀先生の一言一言に重みを感じました。



再審にかける熱い思いを語る後藤団長

10 前も記者会見やった。長かったなあ。正直いって、時間はかかったけど小林先生の力も借りながらここまで来た。大分刑務所に行って、彼がずっと待っていたことがわかった。ようやくスタートにたつことができた。早く社会に出せるように頑張りたい。



再審申立書要旨を説明する川岸事務局長

15人の弁護団を代表して、申立要旨（事件概要、1審判決（無罪）の自白の誘導性、信用性がないこと。控訴審判決（確定判決）の判断の脆弱性、そして新証拠とその意義について30分にわたって説明。直ちに再審開始と刑の執行停止の決定を求めた。



再審への見通しを語る経験豊かな小林先生

日弁連の支援決定（事件のえん罪性、新証拠など）について。今後の見通しとしては、検察庁に証拠開示を、裁判官にも開示するよう働きかけていく。三者協議で争点をはっきりさせ、今回の新証拠に関わっては専門家の証言を求めていく。



中日新聞、朝日新聞、読売新聞の各記者から、「再審の今後の見通し」「再審にかかる思い」「田邊さんとの面会での様子は」「今回の再審のタイミングについて」など質問が出された。

弁護団の先生方の再審にかかる、熱い思いが伝わる記者会見となりました。

2016年7月15日は、
豊川幼児殺人事件・再審の記念すべき日となりました。
田邊さんの無実を晴らすために、みんなで
学んで支援の輪を拡げていきましょう！

